

# 6月は「環境月間」

## 循環型社会の形成に向けて

市は、平成21年度に「一般廃棄物処理基本計画」を策定し、循環型社会の形成に向けて、ごみの減量と資源化を促進しています。ごみの排出抑制・資源化は市民、事業者の責務であり、ごみ問題の当事者であることを一人ひとりが自覚し、日常の生活や事業活動において取り組んでいかなければなりません。

市のごみ排出量の推移を見ると、国や大阪府の減量目標を平成20年度で達成していますが、今後さらなるごみの減量化に取り組み、平成30年度の市民1人1日当たりの平均ごみ排出量を平成20年度に対し約10%削減させることを目標としています。

## 市民の役割

市民は、ごみの排出者として自覚を持ち、率先してごみの減量化に取り組むことが求められ、大量消費や使い捨て型生活様式を見直し、3R(リデュース・リユース・リサイクル)を活用し、できる限りごみを発生させない生活様式に改善していくことが求められています。ごみの排出抑制に向けた市民の役割を次に示します。

- ①使い捨ての自粛
- ②環境を考えた商品の購入
- ③物を大切に
- ④包装の簡素化、適正化
- ⑤フリーマーケットなどの活用
- ⑥トレイ、リターナブルびんなどの返却
- ⑦資源ごみ集団回収活動への参加、協力
- ⑧生ごみの自家処理
- ⑨市の施策への協力



## 環境騒音の状況…

市内の公園など幹線道路に面しない一般地域23地点で環境騒音調査を実施しました。また、市内を通過する5つの幹線道路沿道6地点で、24時間自動車騒音の監視を行いました。都市部の音環境は依然好ましくなく、夜型社会の進行や自動車の高速化などにより、環境基準の達成状況もほぼ横ばい状態で、一層の環境改善が課題となっています。

※数値は昼間、( )内は夜間。

※環境基準の達成状況は、昼夜間共達成していた地点割合。

表 一般地域の環境騒音の状況

	市内平均	A類型の地域	B類型の地域	C類型の地域
騒音レベル(LAeq)	50(46)dB	50(43)dB	46(42)dB	57(54)dB
環境基準値(LAeq)		55(45)dB	55(45)dB	60(55)dB
環境基準の達成状況		85%	100%	50%

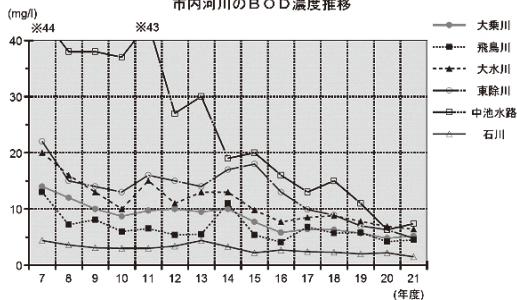
表 幹線道路の面する地域の環境騒音の状況

	市内平均	2車線以下の道路	2車線を越える道路
騒音レベル(LAeq)	70(65)dB	68(64)dB	71(66)dB
環境基準値(LAeq)		65(60)dB	65(60)dB
環境基準の達成状況		0%	0%

## 河川水質の状況…

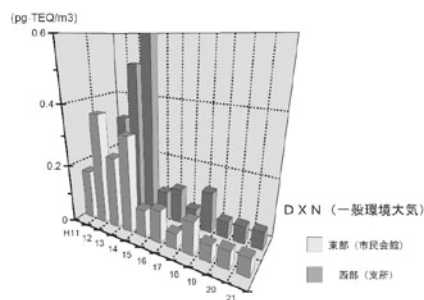
河川水質を代表する指標であるBOD(生物化学的酸素要求量)は、石川、飛鳥川、東除川では環境保全目標値を達成していますが、その他の河川では全体的に改善の方向にあるものの、目標値達成には至っていません。今後も引き続き、生活排水対策、下水道整備などの取り組みを進める必要があります。

市内河川のBOD濃度推移



## ダイオキシン(一般大気)の状況…

市域のダイオキシン類による汚染状況を把握するため、一般環境大気について、市内2カ所(市民会館・支所)で調査を実施しました。両地点とも年平均値は0.061pg-TEQ/m<sup>3</sup>で、環境基準値を下回っていました。平成15年度に大きく改善して以降、この間は同水準で推移しています。



## 飛鳥川 清掃活動報告

飛鳥川じゃこ取りネットワークでは流域の方々が中心となり、飛鳥川で河川清掃活動を実施しています。2009年4月～2010年4月までの一年間で計7回、河川清掃を実施し、延べ197人の方にご参加いただきました。回収できたゴミは軽トラック13台分で約1トン以上のほり、一度清掃した箇所はゴミが徐々に少なくなってきました。

河川清掃を通じて環境を悪くするのも人、改善するのも人だと痛切に感じました。ゴミの少ない本来の川に戻りつつある事を嬉しく思い、それを励みに今年度も河川清掃活動や親子観察会などの活動を多くの皆さまのご協力・ご理解に感謝しつつ地道に活動をしていこうと思っております。

飛鳥川じゃこ取りネットワークに興味・関心がおありの方はウェブサイトをご覧ください。

